

◆事業方針や特徴・工夫等

○市教育委員には、教育支援人材バンク担当事務局、市立小中学校105校には学校支援事務局を設置している。今後、108校ある市立全校に学校支援事務局を設置することを目指し、学校と地域が一体となって教育活動の充実を図っていく。

○複数の学校コーディネーターを委嘱し、各学校の実態に応じた活動を分担させ、学校の幅広い活動を支え、支援している。現在、140名の学校コーディネーターが活動している。

◆地域人材の育成・交流

○学校コーディネーター及びボランティア向け研修会を年5回実施し、必要な教育支援ボランティアの実践例を紹介するなど、コーディネーターの役割や現状を学び、情報交換した。情報交換は、下の写真のようにグループに分かれ行い、その都度グループのまとめ役を選出し、グループでの情報交換終了後、全体に発表し全体でもその内容を共有した。

<教育支援ボランティア研修会>

「八王子市のボランティア活動の状況について」

学校における教育支援ボランティアの実践例の紹介

<学校コーディネーター研修会>

- 第1回 学校と地域の連携について
- 第2回 「ファシリテーション」を知る
- 第3回 発達障害の側に立って、児童理解
- 第4回 学校の組織について知る



◆課題・展望

○市域が広く、配置校も多く、学校も特性が様々という現状に加えて、管理職の異動や学校コーディネーターの入れ替わり等もあって、事業への理解の浸透を図ることが難しく、手立ての工夫が必要である。

○市内小・中学校の全てにおいて人材バンク事務局を設置し、各事務局が円滑に活動できるシステムを構築させることで、学校と地域が連携した教育支援活動の一層の活性化を図りたい。

○各校によりボランティアの数に差があり、ボランティア活動の盛んな学校とそうでない学校があることから、コーディネーター研修を充実させ、全ての学校が地域の人材を活用できるようにしたい。

○学校支援事業から地域学校協働活動への移行を図るため、研修を通し学校コーディネーターの理解を図っていく。

また、「地域協働活動」及び「地域学校協働本部」の考え方にに基づき、学校コーディネーターが地域学校協働活動推進員となり、コーディネーターの範囲も今までより広がることを周知していく。